

8月6日、川崎市立体育館で3月から延期されていた武魂杯が行なわれました。

会場はエアコンが使えず灼熱地獄。

そんな過酷な状況で横浜北支部から大勢の入賞者が出ましたので紹介します。

なお、本レポートは新横浜道場に出稽古に来ているセンター北道場の道場生も掲載しております。

全日本ウェイト制選抜 中量級

優勝

藤田圭亮



約2年前に北大阪支部から移籍した藤田選手。

移籍してから結果が出せず、今大会は進退を賭けて挑んだ。

自ら課したプレッシャーを跳ね除け、見事優勝。

新婚である藤田選手。ようやく奥さんに表彰台の一番上に立つ姿を見せることが出来た。

武魂杯争奪 高校生女子

優勝

日比野愛里



今大会、武魂杯一般女子の部にも参加し、4位入賞。

足の負傷を隠して出場し、2カテゴリーで入賞。

普段の穏やかな姿からは想像できない強靱な体力と精神力をみせた。

11月に開催される女子世界大会に出場する日比野選手は

男性の日本代表選手に負けない活躍をするに違いない。

中学2・3年上級 重量級

優勝

土田 新



高校受験後、勝利から遠ざかっていた土田選手が念願の優勝。

玄人好みの堅実な組手スタイルは安定感抜群。

豊富な練習量で培ったスタミナで終始運動量が落ちることなく優勝をもぎ取った。

一般の試合でも通用するその実力は横浜北支部次代のエース候補だ。

中学1年上級

優勝

吉川栄孝



同門の土田選手が目の前で優勝したことで吉川選手が燃えた。

決勝では闘志を漲らせ、接戦を制して優勝。

今大会、全試合を通じて見せた安定感は地道に続けた基礎体力トレーニングの成果だろう。

育ち盛りの吉川選手は現在怪物に変貌中だ。

小学5・6年女子初級

優勝

廣谷秀代



試合初挑戦の廣谷選手がいきなりの優勝。隠れた実力者がその実力を現した。
初戦では自分よりも体格の大きな選手に確実なダメージを与えて勝利。
その勢いで決勝もワンサイドで勝利した。
自らの実力を知った廣谷選手は今後ますます強くなるだろう。

全日本ウェイト制選抜 軽量級

準優勝

勝山 稔



横浜北支部が誇るマッチョ選手が初入賞。
だが、その脅力を知る人は今大会の成績も物足りない。
本来の実力を発揮した時、その破壊力に誰もが驚くはずだ。

武魂杯争奪 小学3年の部

準優勝

菅 和志



灼熱の会場で菅選手が燃えた。
相手を焼き尽くすような猛ラッシュはポイントで勝とうなどの考えは皆無。
「これぞ格闘技」という戦い方をする稀有な少年部。
間違いなく喧嘩も強いだろう。

中学2・3年上級 重量級

準優勝

日比野英翔



姉・愛里と姉弟優勝を狙うも同じ横浜北支部の土田選手に阻まれた。
この敗戦により日比野選手のライバル心に火が点いたに違いない。
近い将来、更に大きな舞台で再び相見えるであろう土田選手にリベンジを誓う。

小学2・3年女子上級

準優勝

知念琉花



今年の出場する大会全てで決勝進出を果たしている知念選手。
今大会、試合前のアクシデントで歩けないほどの怪我を負ったが、
試合が始まれば果敢に相手を攻め立て決勝に進出。
そのメンタルタフネスが高い勝率を支えているのだろう。

一般チャレンジマッチ

準優勝

加藤大祐



初戦は相手を圧倒する攻撃力を見せた加藤選手。
決勝では序盤アグレッシブに攻めるも、延長戦で燃え尽きた。
スタミナ不足さえ克服できれば更に上の成績が望めるはずだ。

高校生チャレンジマッチ

準優勝

古波 蔵 慎



受験勉強真っ只中にも関わらず試合出場。

練習不足で動かない体で必死に戦った。

その闘志は過酷な受験戦争も乗り越えられるはずだ。

全日本ウェイト制選抜 軽量級

第3位

尾藤 勇



横浜北支部の壮年の星がウェイト制選抜で初入賞。

アラフォーとは思えない体力で澁刺とした戦いぶりを見せた。

勝山選手との横浜北支部同士の決勝は叶わなかったが、応援に駆けつけた同朋に勇気を与えた。

壮年40歳以上上級 軽量級

第3位

梅澤 秀明



試合直前に仕事上の事故で背中を負傷するも見事入賞。
不屈の闘志を見せた。

試合が終了後は自分が入賞していることに気づかず、
応援に来てくれた子供達と食事に出掛けてしまい表彰式を欠席してしまう一幕も。
優しいパパの一面も見せた。

小学5年初級

第3位

村上朝太郎



表彰台上った村上選手を見て驚いた。他の選手全員が村上選手より頭一つ分大きい。
準決勝では優勝した選手の膝蹴りに屈したが、最後まで倒れることはなかった。

「大切なのは身体の大きさではなくハートの大きさ」(アレン・アイバーソン(NBA選手))
という言葉がピッタリの戦いぶりだった。

小学5年上級重量級

第3位

勝呂洸希



端正なルックスに相応しいスピード感あふれるスタイリッシュな戦いぶり勝ち上がる。

準決勝では20kg以上の体格差に押し切られたが、最後まで一本を狙う姿勢は見る者の手に汗を握らせた。
体の線が太くなったら大化けする可能性を秘めている選手だ。

小学3年上級 重量級

第3位

田村亮大



寡黙な男が堅実に入賞を果たした。

決して諦めない。決して楽しんで勝とうとしない。淡々と稽古どおりの動きを繰り返す。
大人になって大きな仕事をやり遂げるのはきっとこういう子なのだろう。

小学2年初級 軽量級

第3位

庭野 溪



普段は物静かな庭野選手が別人のような動きを試合で見せた。

相手に攻められても慌てずサイドに動き、稽古どおりのコンビネーションを繰り返す。
稽古どおりの動きを試合でできるということは一種の才能だ。

小学1年初級

第3位

貞宗亮汰

週1回しか稽古のないオアフ道場から参戦し、堂々の3位入賞。

上段蹴りを狙いすぎる癖があるが、技の鋭さは抜群。

中段や下段への技の振り分けができればオアフ道場初の優勝も狙えるはずだ。

✕ 閉じる